

ほっと連携

第32号

2019

令和元年7月31日
発行

◆発行／北見赤十字病院地域医療連携室 北見市北6条東2丁目1番 ◆発行責任者／荒川 穰二
<http://www.kitami.jrc.or.jp/> E-mail : renkei@kitami.jrc.or.jp

就任のごあいさつ

院長 荒川 穰二



を大きく下回り、医師少数区域と指定され、慢性的に医師不足の状況が続いています。オホーツク圏の人口は、少子高齢化の影響で年々減少することが推定されていますが、北網圏では高齢化のために入院患者数は2030年まで増加することが見込まれています。国が推進する地域医療構想

本年4月に北見赤十字病院の8代目院長を拝命いたしました荒川穰二と申します。1999年に旭川赤十字病院から当院の4代目麻酔科部長として着任し、2005年からは副院長として病院運営にも携わってきました。

当院は、オホーツク三次医療圏の地方センター病院として、中核的な病院と位置づけられています。オホーツク圏域の面積は、三次医療圏として岐阜

県において、北網二次医療圏135、2(253位)、遠紋二次医療圏115、3(292位)と全国平均238.3

において、病院の機能分化と病床再編が必須であり、正に地域医療連携を強化することがこの地域にとって重要だと思います。当院の役割は、病院や介護施設、さらに行政等と連携し、地域完結型の医療体系の一旦を担うことと考えています。

2018年4月から隣接する道立北見病院が当院の指定管理となり、協力して一体的に運営することとなりました。オホーツク三次医療圏の高度急性期・急性期医療を担い、オホーツクに住む方々に、高度かつ安全な医療を提供し、雄大な自然や豊かな食資源を堪能し、安心して生活することができるよう努めていきます。ご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年4月から隣接する道立北見病院が当院の指定管理となり、協力して一体的に運営することとなりました。オホーツク三次医療圏の高度急性期・急性期医療を担い、オホーツクに住む方々に、高度かつ安全な医療を提供し、雄大な自然や豊かな食資源を堪能し、安心して生活することができるよう努めていきます。ご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。





副 院 長
菅 原 修

この度、4月1日より副院長を拝命致しました、菅原 修と申します。私は、清里町生まれ北見市育ちで北見北

斗高校卒業です。1994年に整形外科第2部長として地元北見に戻ってきました。以来25年間、整形外科として臨床現場を中心にオホーツク医療圏の医療に携わってきました。その間、多くの先輩・同僚に恵まれ切磋琢磨しながらオホーツク医療圏のセンター病院としての役割の一助を担えたことは、私の誇りとするところです。

これからは副院長として病院の管理・運営の仕事が加わり、改めてその責任の重さを痛感しております。

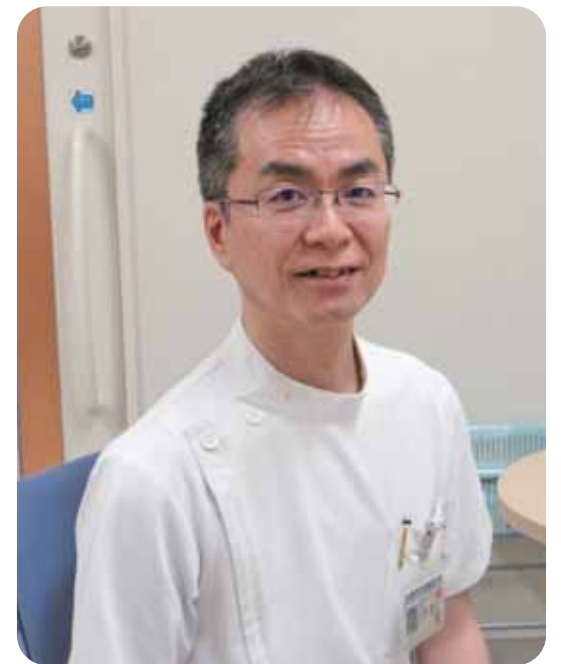
道立病院が2018年4月から当院の指定管理となり、協力して一体的に運営することとなりました。当院の役

割は、道立病院と一体となり、高度急性期、急性期の病院として、オホーツク圏域の病院や介護施設、さらに行政等と連携し、地域完結型の医療体系を構築することです。その

当院の外來は、各診療科の事情により完全予約制からフリーアクセスまでさまざまです。先生方や住民の方々にも混乱のないよう、地域医療連携室や病院広報を通じてきめ細やかに説明させていただき、ご理解いただけるように努めてまいります。

医療機関同士の連携が良好で、地域完結型の医療体系が構築できるよう努力いたしますので、これからも皆様からのご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

就任のご挨拶



副 院 長
齋 藤 高 彦

この度、4月1日より当院の副院長を拝命いたしました、齋藤高彦と申します。

思い出です。この1-2年は、心不全の医療介護連携から、アドバンス・ケア・プランニングの当院および地域への普及活動などに関わらせていただいています。

私は函館の近くの七飯町の出身です。北大循環器内科に入局し、2008年に当院に赴任しました。赴任する直前に内科医の大量退職事件がありました。吉田前院長のリーダーシップや当院スタッフの頑張りはもちろんですが、医師会の皆様や、地域の皆様のご協力、全国の赤十字病院のスタッフのご支援を得て乗り切ることができたと思っています。

2011年東日本大震災の時は、石巻赤十字病院の救急外来の支援に、2016年の熊本地震と2018年の胆振東部地震の時に日赤救護班として支援活動をさせていただきました。当院が基幹病院となる内科と総合診療の専

門医プログラム策定、病院機能評価のケアプロセス調査対応にも関わらせていただきました。いずれもまったく中にいる時は大変だったような気がしますが、終わってみると良い

副院長となりますと、求められるものもより高くなりますし、大変な重責を感じております。当院の理念にも、「地域の期待と信頼に応えます」とありますが、地域連携は、医師会の先生方との連携はもちろんのこと、医療介護福祉に関わる皆様と連携し、そしてさらに連携を強化していく必要があると思います。地域の皆様にとって当院がより良い病院になりますよう、微力ながら貢献していきたいと思っています。皆様には今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶



看護部長
佐々木 敦 美

この度4月1日より北見赤十字病院看護部長を拝命いたしました佐々木敦美と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。私は、北見赤十字看護専門学校を卒業後昭和58年北見赤十字病院に入職しました。内科病棟・産婦人科病棟・外科病棟・手術室勤務を経て平成6年にはICUの開設準備に関わりICU看護に長年携わってきました。その後看護係長・看護師長、看護副部長ののち現在に至っております。

看護部は「人道の実践者として、質の高い看護を提供します」、「看護職員自身が仕事を通してやりがい感を持って、自己の成長を確認します」のふたつの方針のもと努めております。少子高齢化と人口構造が変化し「治す医療」から

「治し支える医療」への転換が求められ多職種それぞれの専門性と強みを活かした患者さんの安心につながる療養支援が課題となっております。患者さんに最も近い存在である看護職員にしかできない専門性を発揮し患者さん、ご家族を支えることができる看護チームとしての機能を強化していきたいと考えております。地域住民の皆さまから「北見赤十字病院と道立北見病院があるので安心して生活ができる」と言ってもらえる病院を目指していくために職員一丸となり力を合わせて進んで参ります。今後ともご支援ご協力の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。

小児科からのお知らせ アレルギー外来の

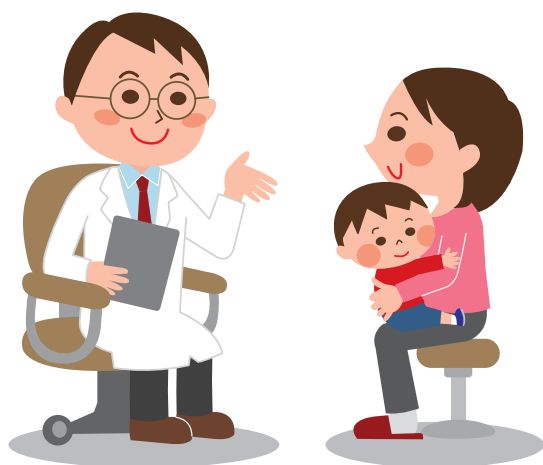
御紹介

第一小児科部長 佐藤 智信



の結果から安全に摂取できる量を少しずつ食べていただき、体に慣らしていく治療（緩徐経口免疫療法）が有効な場合もありますので、希望される方には本治療を行うこともあります。現在、北海道大学病院小児科からアレルギー専門医の資格を持つ医師にも定期的に当科外来で診察していただいております。また、アナフィラキシーの既往がある患者さんには当科でエピペン®の処方も行っております。原因食物の種類や患者さんの年齢、血液検査の結果によってはOFCや緩徐経口免疫療法の対象とならない場合もございますが、まずは御紹介いただければ存じます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

当科ではアレルギー外来を開設しており、とりわけ食物アレルギーの患者さんの診断と治療を積極的に行っております。従来は症状のみられた食物、血液検査や皮膚テストで陽性となった食物の除去を継続し、自然に治ることを期待しながら待つのが一般的でした。もちろん3歳頃までに耐性を獲得して摂取が可能となる方もいらっしゃいますが、もともと症状の重い素因を持つ方は年長になっても耐性を獲得できず、生涯アレルギーとお付き合いしていく必要があります。このため低年齢のうちにアレルギーとなる食物を正しく診断し、不要な除去をすることなく食べるタイミングを見計らう必要があります。血液検査はあくまで補助的なものですので、確定診断には食物経口負荷試験（Oral Food Challenge Test: OFC）が必要であり、当科では原則入院によりOFCを行っております。自然に治ることが期待しにくい患者さんには、OFC



より安全な脊椎手術のために 当院の脊椎手術環境

の紹介

第三整形外科部長 松盛寛光



当院で行っている脊椎手術に関して紹介させていただきます。平成30年度は89件の脊椎手術があり、ここ数年で件数が増加傾向にあります。高齢化社会を反映しているという側面もありますが、脊椎手術自体のここ数年の進歩が目覚ましく、より安全に、より低侵襲に行えるようになってきたことが最大の要因と考えております。

当院においてもその時代に対応できるように設備を一新いたしました。脊椎手術に特化した手術ベッドを導入し、執刀医にストレスのない手術環境となっています。容易にレントゲン透視装置の出し入れを行えるだけでなく、一切金属を使用していない手術ベッドのため、手術中にCT撮影を行うことが可能となりました。

術中に撮影されたCT画像を、新たに導入したナビゲーションシステムと組み合わせることによって、より脊椎への正確な金属スクリーンの設置が可能となりました。これまでは術中のレントゲン透視を頼りに行っていたため、刺入方向の不確実性があっただけでなく、手術時間が長くなったり、スタッフの術中被曝量が多くなってしまつという問題がありました。ナビゲーション手術中はスタッフの被曝がない状態で、多方向からの画像を確認しながら、手術を行えます。また万が一の神経損傷のリスクも考慮し、神経モニタリングシステムも導入しました。

脊椎手術ベッド、術中CT装置、ナビゲーションシステム、神経モニタリングシステムが完備され、より安全・低侵襲に、高度な脊椎手術ができる環境となっています。ADLを左右する骨粗鬆症やそれに伴う骨折、腰部脊柱管狭窄症などの患者さんが高齢化に伴ってこれからも増加することが予測されます。高齢を理由に脊椎疾患治療をおろそかにするのではなく、高齢でも元気であるために、脊椎疾患治療を進めていきたいと思っておりますので、脊椎疾患でお困りの方は遠慮なくご紹介頂ければと思います。



写真説明：手術器具(左)の位置が、ナビゲーション画面(右)に映し出されている。

2019年度 ●内科系3診療科オープンカンファレンス 症例検討内容

	題名		題名
第1回	「静脈血栓塞栓症に類似した臨床症状の原因がビタミン欠乏と考えられた一例」 発表者 循環器内科 臨床研修医 夏山 知也	第3回	「抗TIF 1-γ抗体陽性皮膚筋炎の一例」 発表者 内科・総合診療科 臨床研修医 松本 洸
	「インフルエンザ感染後にギラン・バレー症候群を発症した一例」 発表者 内科・総合診療科 中澤麻由奈		「肺炎を契機に多臓器不全を呈した三心房心臓の一例」 発表者 循環器内科 臨床研修医 蔦屋美寿季
第2回	「血球貧食症候群を伴った感染性心内膜炎の一例」 発表者 内科・総合診療科 崎山 広大	第4回	「ニューモシスチス肺炎を発症した多発性骨髄腫の一例」 発表者 内科・総合診療科 臨床研修医 大浦 峻介
	「サイトメガロウイルス腸管感染症について」 発表者 消化器内科 松田 可奈		「X線透過性のある胆石症について」 発表者 消化器内科 田中 崇倫

●開催予定日表 本館3階特別会議室 午後18時30分～

第5回	
令和元年9月19日(木)	
発表者	内科・総合診療科 消化器内科
第6回	
令和元年10月17日(木)	
発表者	内科・総合診療科 循環器内科
第7回	
令和元年11月21日(木)	
発表者	循環器内科 内科・総合診療科
第8回	
令和2年2月20日(木)	
発表者	消化器内科 内科・総合診療科

～新しい医師を 紹介しま～す～

(2019年4月～)



第二内科・総合診療科副部長
野口 淳史



内科医師
橋口 淳一



内科医師
竹中 駿



内科医師
川村 拓朗



内科医師
崎山 広大



第一循環器内科副部長
勝山 亮一



小児科医師
加藤 晶



小児科医師
渡邊 敏史



外科医師
鈴木 友啓



外科医師
福田 啓人



外科医師
幾島 拓也



整形外科医師
笹井 健吾



泌尿器科医師
大谷 美結



泌尿器科医師
宮内 琴菜



産婦人科医師
梅本 美菜



産婦人科医師
蛸谷 由真



産婦人科嘱託医師
野口 愛菜



頭頸部・耳鼻咽喉科医師
荒木 大輔



第一麻酔科部長
東口 隆



第二麻酔科副部長
表 雅仁



麻酔科医師
伊野亜佑美



麻酔科医師
佐藤帆奈美



麻酔科医師
田中 亮圭



第一消化器内科副部長
出水 孝章



第二消化器内科副部長
松田 可奈



消化器内科医師
古川理紗子



消化器内科医師
野村 朝子



消化器内科医師
白鳥 翔也



消化器内科医師
田中 崇倫



救急部嘱託医師
森下 貴史



臨床研修医
佐藤 健太



臨床研修医
要名本あゆみ



臨床研修医
甲斐 公博



臨床研修医
松本 洸



臨床研修医
川人 慎



臨床研修医
堀北 風花



臨床研修医
大浦 峻介

外 来 の ご 案 内

診 療 科 目

★内科・総合診療科
(完全予約制)

★消化器内科
(完全予約制)

●神経精神科

●循環器内科

●小児科

●外科

★整形外科
(完全予約制)

●形成外科

★ペインクリニック内科

●脳神経外科

●皮膚科

★泌尿器科
(完全予約制)

●産婦人科

★眼 科
(完全予約制)

●頭頸部・耳鼻咽喉科

★放射線科

●麻酔科

★歯科口腔外科
(完全予約制)

★：紹介状が必要です

休 診

- 土曜日 ●日曜日 ●祝日
- 12月29日～1月3日
- 5月1日（日本赤十字社創立記念日）

事前予約について

紹介状を持参される患者様につきましては、患者様の受診希望日時を事前にFAXにて予約診療のお申し込みいただきますと、診察当日、待ち時間が短縮されます。ぜひご利用願います。（但し、急患の場合は各科へ直接連絡願います。）

診 察 カ ー ド

診察券は全科共通で使用いたします。
ご来院時に必ずお持ち下さい。

保 険 証

健康保険証はご来院時に確認させていただいております。特に、更新・変更の際は必ずご提出下さい。

地域医療支援病院

北 見 赤 十 字 病 院

『理 念』

人道・博愛に基づき、患者さんを尊重した医療を提供し、地域の期待と信頼に応えます。

『基 本 方 針』

1. 真に患者本位の医療を提供する、質の高い病院を目指します。
2. 二次～三次の救急医療と高度医療の充実した病院を目指します。
3. 国内外やオホーツク地域の災害・救護医療を担います。
4. すべての職員が成長でき、働く満足度の高い病院を目指します。
5. 次世代を担う人材育成のための、教育・研修に努めます。
6. 健全経営を行い、医療活動を通じて地域社会に還元します。

『患者さんの権利』

1. 人間としての尊厳が守られ、公平で良質な医療を受ける権利があります。
2. 理解・納得できる十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
3. ご自分の意思で診療を選択し決定する権利があります。
4. セカンドオピニオン（他の病院・医師の意見を聞く）を受ける権利があります。
5. プライバシーを保護される権利があります。

『患者さんの責務』

1. ご本人であることを確認するために、ご自身で名前をお伝え下さい。
2. アレルギー歴、病歴等について出来るだけ正確にお伝え下さい。
3. 医療スタッフの説明を良くお聞きになり、ご理解のうえ治療や検査などの医療行為をお受け下さい。
4. 病院内では秩序を保ち、他の患者さんのご迷惑にならない様に努めて下さい。
5. 医療費は速やかにお支払い下さい。
6. 当院は臨床研修病院として、卒前・卒後研修教育を担っています、医療専門職の育成にご理解・ご協力下さい。

北見赤十字病院 診療一覧表

*都合により担当医が変更になる場合があります。

2019年7月29日現在

診 療 科		月	火	水	木	金
内 科 ・ 総合診療科	午 前	永嶋 野口 大谷 吉田(知)	橋口 島田 吉田(知) 竹中	吉田(茂) 野口 大谷	永嶋 野口 川村 吉田(知)	#北大血液内科 膠原病(保田/古川(月1)) 島田 崎山 (昭和大出張医)(昭和大出張医)
		島田(新患) #血液内科連携予約	崎山(新患) #血液内科連携予約	川村(新患)	竹中(新患) #血液内科連携予約	大谷(新患)
		北大神経内科(月2度)				北大腎内(月1)
		#野口		#野口	#野口	
		#リウマチ・膠原病の地域医療連携予約は野口の月・水・木(午後) 北大神経内科(月1度)				
	午 後	検査・処置・急病診療				
		古川 上林 松田	江平 出水 青山	岩永 古川 (担当医)	江平 上林 青山	岩永 出水 松田
		180外来(月1回) 腫瘍内科				
		検査・予約診療・急患診療のみ				
		小野(新患)	小野(新患)	小野(新患)	小野(新患)	小野(新患)
消化器内科・ 腫 瘍 内 科	午 前	古川 上林 松田	江平 出水 青山	岩永 古川 (担当医)	江平 上林 青山	岩永 出水 松田
	午 後	検査・予約診療・急患診療のみ				
循環器内科	午 前	小野(新患)	小野(新患)	小野(新患)	小野(新患)	小野(新患)
	午 後	検査				
神経精神科	午前	新患(再来)	早坂	嶋田	柏木	交代制(嶋田/早坂/柏木)
		再 来	早坂	嶋田	嶋田	嶋田
	午後	再 来	早坂	伊藤	伊藤	早坂
		再 来	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤
小 児 科	午後	紹介患者のみ	大浦	菅沼	菅沼	菅沼
		特 殊	菅沼	菅沼	菅沼	菅沼
	午後	特 殊	菅沼	菅沼	菅沼	菅沼
		特 殊	菅沼	菅沼	菅沼	菅沼
外 科	午前	新患(再来)	京極	新田	上村	鈴木
	午後	再 来	京極	新田	上村	鈴木
整 形 外 科	午後	再 来	菅沼	菅沼	菅沼	菅沼
		再 来	菅沼	菅沼	菅沼	菅沼
	午後	再 来	菅沼	菅沼	菅沼	菅沼
		再 来	菅沼	菅沼	菅沼	菅沼
形 成 外 科	午前	菅沼(予約のみ)	菅沼	菅沼	菅沼	菅沼
	午後	菅沼	菅沼	菅沼	菅沼	菅沼
脳神経外科	午前	新患(再来)	鈴木(新患)	三井	タッカー	急患診療のみ
	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
皮 膚 科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
皮 膚 科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
泌 尿 器 科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
泌 尿 器 科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
産 婦 人 科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
産 婦 人 科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
眼 科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
眼 科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
頭 頸 部 ・ 耳鼻咽喉科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
頭 頸 部 ・ 耳鼻咽喉科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
放 射 線 科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
放 射 線 科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
麻 酔 科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
麻 酔 科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
ペインクリ ニック内科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
ペインクリ ニック内科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
緩和ケア内科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
緩和ケア内科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
歯 科 口 腔 外 科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
歯 科 口 腔 外 科	午後	再 来	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木

北見赤十字病院 地域医療連携室

受付時間：月曜日～金曜日 午前8:30～午後5:00迄
TEL0120-018-299 FAX0120-018-599

ご意見、ご要望がございましたら、地域医療連携室までお願いいたします。 E-mail:renkei@kitami.jrc.or.jp